

看護師にしか できないことがある

私が手術部の部長をやっていたころの話です。手術件数が急増していました。当時も看護師不足は深刻でしたので、手術が増えたことよって「手術室に入れる看護師がいない」と看護部から悲鳴が上がりました。そして「看護師なしで手術をしてくれないか」と言うのです。

そのとき僕は、その看護部長に「看護師は単に器械出しをするための技術屋ではないでしょう」と言いました。外科医が単独で手術をやっていたらよいのではなく、看護師は手術に協力するとともに、手術がどのように行われているかチェックし、手術室ひいては医療全体の進行を見守るという重要な役割を果たさなくてはいいけない。

病院では、看護師だけが24時間365日体制で引き継がれて、常駐している。だから、病院の中のいろんなことは、看護師が一番よく知っているんです。そこが病院管理、病室運営のもっとも重要なところなんです。

看護師の方々には、自分たちが医療の中心なんだという認識をもっていた方がいいですね。

楽な仕事はありません 自ら行動し、勝ち取ってほしい

医師もそうですが、看護師の方についても、その職業を選んで間違いはなかったと思われ



ていると思います。しかし、そこから次に、どのように医療に関わり合っていくかということを実際に考えていかなければなりません。

そういう意味では、楽な仕事というのはひとつもありません。どこへ行っても、楽をしようなどと思っただけじゃありません。やはり、患者さんの信頼を勝ち取ってこそ医療が成り立つのですから、自ら行動し、汗をかいてほしいですね。まず行動して、その中で何かを見つけて、次のステップに移っていく。ただ単に待っているのはダメだと思います。

例えば大学では、「オフィスアワー」といって、毎週定期的に一定の時間、学生たちが教授陣と自由に交流できる環境をつくるようにと文科省からも求められています。

では、「毎週金曜日の1時〜3時まで教授室の扉を開け、教授も部屋にいますので、学生さん、どうぞ自由に来てください」としたら、学生たちは訪ねていくでしょうか？なかなか行きませんよね。僕でも行かないかなあ（笑）。

だから僕は、「教員が部屋で待っているだけではなく、教員が自らキャンパスを歩き、色んなところに行って学生に声をかけ、どんどんコミュニケーションしていったらどうか」と言っています。要するに、「行動する者」であってほしい、と。

人と人とのコミュニケーションは本当に重要だと考えています。看護師の皆さんにも、そのためにはまず、相手の言葉を正しく理解し、自分の考えを正しく伝えられる、そういう能力を磨いてほしいですね。